

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90216	民族工芸論研究 (偶数年度開講)	4単位 通年	1・2	講義	柳 悦州 (客)

■テーマ 織物文化を軸として民族工芸について考察する。

■授業概要

織物は、人びとの生活と密接に関わってきた。この授業では、沖縄とラオスやシルクロード沿い諸国の織機構造や織物技術について、歴史の変遷や文化的背景を視野に入れながら検討し、工芸と織物の意義について明らかにする。

■到達目標

工芸は、伝統として固定されたものではなく、ダイナミックに様々な要因で速い速度で変化していく部分と、変化の遅い部分のあることを把握し、民族工芸の特質について理解する。

■授業計画・方法

前期

1. 織物と織機の定義
2. 経糸の整経方式
3. イランの遊牧民の織物
4. ペルシャカーペット
5. ウイグル人の経緋絹織物
6. ウイグル人の木綿織物
7. トルコの織物
8. シルクロード沿い諸国のムシロとその織機
9. チベットの綾織り織物
10. 中央アジア地域の織機の変化と生活様式
11. 中南米の特殊な織物
12. ラオスの浮き織物と織機
13. ラオスの少数民族の腰機
14. ラオスのムシロとその織機
15. 前期のまとめ

後期

16. ラオスの織物素材
17. 西洋の産業革命と織物
18. 日本の産業革命と織物産業の変化
19. 日本の腰機
20. 日本の高機
21. 石川メンサーの意義
22. 奄美の紋織物と腰機
23. 沖縄の紋織物と腰機
24. 沖縄の紋織物と腰機
25. 沖縄の織物素材
26. 沖縄の緋 (手結緋)
27. 沖縄の緋 (捺染、機締め、絵図緋)
28. 沖縄の近代の織物
29. 戦後の沖縄の織物
30. まとめ

前期は、伝統織物と生活様式の変化の関係について民族工芸の視点から考察する。後期は織物文化の諸相から染織技術とその変遷について考察するとともに、沖縄の工芸の特性について明らかにしていく。

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

織物と織物技術に関する基礎知識が必要である。

■成績評価の方法

□方法 平常点とレポートによる総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究所 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献 (作品) 等

□参考文献 吉本忍「手織機の構造・機能的分析と分類」国立民族学博物館研究報告 12 巻 2 号 (1987)

吉本忍・柳悦州『世界の織機と織物』国立民族学博物館 (2013)

田中俊雄・玲子『沖縄織物の研究』紫紅社 (1976)